

【平成30年度決算 一般会計歳出の内訳】

※ 1万円未満切り捨て

1 款 議会費	2億3,782万円	7 款 商工費	3億3,725万円
2 款 総務費	24億3,562万円	8 款 土木費	17億5,578万円
3 款 民生費	86億8,789万円	9 款 消防費	8億6,171万円
4 款 衛生費	34億1,400万円	10 款 教育費	22億3,469万円
5 款 労働費	2,882万円	11 款 災害復旧費	1,360万円
6 款 農林水産業費	5億9,407万円	12 款 公債費	29億6,727万円

- スクールソーシャルワーカーの派遣数や活動内容について
- 弓道場建設事業の委託料の内容と減額理由について
- 教職員と事務局職員の長時間労働への対応について
- 要保護及び必要保護児童への学用品費の支給時期について

【公債費】

- 合併特例債の発行累計額と償還計画について

【歳出全般的事項】

- 経常収支比率の推移とその要因について

一般会計歳入

- 市営住宅の使用料等の滞納者への対応状況について
- 市営住宅の使用料等の長期滞納者への法的な措置について
- 市たばこ税の現状と喫煙コストについて
- 禁煙支援や禁煙治療の実施について
- 病後児保育事業使用料の増加理由と病児対応型保育について
- 個人市民税と法人市民税の増額の要因について
- 地方交付税が減額になった原因と今後の見通しについて
- 入湯税の対象施設について
- 入湯税の対象となる宿泊者数と日帰り客数について
- 入湯税の免除について
- 財政調整基金の運用結果と考え方について
- 歳入歳出規模の縮小と不用額の増加について
- 市債の運用結果と考え方について
- 合併特例債の活用について

一般会計反対討論

前年度対比、歳入で2・79%の減、歳出では2・87%の減という減額決算となりました。

決算規模が減少したのは、特に法人市民税が4億1000万円ほど増加しただけで、人件費2・91%増や繰り出し金1・4%増加したのみで、ほぼ全ての経費が減額となっており、特に投資的経費が14・4%も落ち込んでいます。これは目立った新規事業の実施がなく、市民要望に十分応えたとは言えないものとなりました。

法人市民税は、18・6%も増えましたが、予定納税と企業の業績に的確な配慮を行って、当初予算から妥当な予算化を行うべきです。

歳出では、平和の市民活動に対する助成が昨年度よりさらに半減されました。高齢化の進む山間地の交通対策では、一刻も早い対応が求められますが、免許証を返上しても安心して住み続けられる地域構築のためにも、喫緊の対策が必要とされます。

一般会計賛成討論

平成30年度の一般会計は、歳入において市税は増収となったものの、地方交付税等は減少となり、歳出では投資的経費の縮小により、実質収支額を7億9000万円余りとして決算できたことは、効率的な財政運営に努めた結果であると評価します。

主要な事業では、新生児聴覚検査や子どもの夢応援事業といった子育て世代への施策のほか、創業者支援事業等、働く世代にも配慮した施策を展開しています。

また、碓氷峠の森公園「ふれあい広場」や子育て支援拠点事業、西毛広幹道事業等、インフラ整備にも力を入れており、整備後の施設活用にも期待するところです。

今後の財政運営は、社会保障関係費が増加する一方、法人市民税の税率引下げなどにより、歳入が減少する非常に厳しい状況となるため、事務事業の見直しを積極的に行い、更なる行財政改革・歳出削減に取り組むよう要望します。